

立教181年11月25日

編集・発行 天理教民生児童委員連盟  
天理市三島町1-1 社会福祉課民生児童委員連盟  
☎ 0743-63-6161

## 新委員会発足 ご挨拶



天理教民生児童委員連盟新委員長  
**山田 常則**

天理教教庁では本年、中田表統領が二期目に就任され新たな体制となりました。天理教民生児童委員連盟においても長年委員長としてお勤めいただいた荒川博之氏と副委員長としてお勤めいただいた小湊憲一氏が退任されました。

立教181年6月25日、布教部長から新たに委員が任命され、不肖山田常則が委員長に大前道廣氏と吉永道子氏が副委員長に就任いたしました。又、高野恒善氏（新潟教区）、末村真人氏（兵庫教区）、松尾弘幸氏（長崎教区）、青木健裕氏（愛知教区）が新しく委員に任命され総勢15名で新連盟委員会を構成することとなりました。

昨年は民生児童委員制度発足100年という節目の年を迎え、本年は又新たな世紀に向かつての出発の年となりました。天理教民生児童委員連盟は、1959年（昭和34年）1月25日「天理教民生委員連盟結成大会」が開催され発足しました。同年10月27日「第一回民生委員連盟総会」が開催され、表統領から「本教の民生委員である」と

いうことを自覚し、広い意味のおたすけとしてその任を全うしていただきたい。」との挨拶がありました。

天理教民生児童委員連盟は結成以来すでに半世紀も過ぎ、来年は60年を迎える年となります。結成当時の日本は岩戸景気といわれる戦後高度成長時代を迎え社会が活発に動き出した時代でした。現在は少子高齢化が進み社会問題も山積しています。

数多くの児童虐待が報告され、教内でも里親として子供たちの育成に努力されている方々も多くいます。又「子ども食堂」を通して大勢の方々への心の安らぎの場を提供している方もいます。天理教民生児童委員連盟では中田表統領から発表された「時代の流れとともに、変容・多様化する生活環境や社会状況を十分に理解して、現代社会で難儀する人におたすけを実践していかねばならない」との方針の実現の場として、おぢばでは「おやさと研修会」や社会福祉大会における分科会、地域では「地域のおたすけ研修会」を開催しています。

社会貢献は教えの実践であり、おたすけであります。道の民生児童委員として「世界一れつたすけたい」という親の思いを心に、積極的に活動を進めていきたいと考えております。

全国各地でご活躍の道の民生児童委員の皆様方のご協力をぜひお願いいたします。



## 平成30年度活動報告

### ● 第11回 社会福祉大会

(4月25日 於・おやさとやかた南右第二棟4階)

#### 【講演】

演題 「私が歩んだ道

― 見えないから見えたもの ―

講師 竹内 昌彦 氏

岡山ライトハウス理事長

岡山県視覚障害者協会理事

【参加者】 363名

### ● 平成30年度 天理教民生・児童委員連盟総会

(4月25日 於・おやさとやかた南右第二棟4階)

#### 【内容】

開会の辞

委員長挨拶

1、平成29年度活動報告

2、平成29年度会計決算報告

3、平成30年度活動計画

4、平成30年度予算案

5、平成30年度6月任期満了に伴う新委員会について

6、新委員会紹介

閉会の辞

情報交換会

【参加者】 20名

## ご案内

### ● 地域のおたすけ研修会 ― 四国ブロック ―

【日時】 平成31年3月9日(土)・13時〜

【会場】 香川教務支庁

高松市錦町2丁目8番2号

電話 087-821-4640 FAX 087-823-7870

【開会】 13時00分(受付・12時30分)

#### 【内容】

・ 親神様、教祖、祖霊様 礼拝

・ 開会の辞 大前 道廣 副委員長

・ 山田 常則 民生児童委員連盟委員長 挨拶

・ 板倉 知幸 本部布教部社会福祉課長 挨拶

・ 中腰 治夫 香川教区長・双名島大教会長 挨拶

第1講 「地域のおたすけに取り組む」 13時30分〜

講師 上平 智一 委員 「子ども食堂」

講師 吉永 道子 副委員長

「地域子育て支援拠点・つながりをつくること」

講師 丸川 ひさよ 氏

「誰にでも出来る社会貢献

ファミリーサポートセンター活動等」

第2講 「社会福祉協議会の活動について」

講師 高松市社会福祉協議会

地域福祉課長 補佐 大川 裕子 氏 (予定)

パネルディスカッション、質疑応答

司会 橋本 直之 委員

【閉会】 17時00分 閉会の辞 野田 裕和 委員

・ 親神様、教祖、祖霊様 礼拝

## 平成 29 年度決算及び 30 年度予算（案）

29 年度収入合計 784,399 円

29 年度支出合計 468,407 円

30 年度 繰越金 315,992 円

## 収入の部

項 目	29 年度予算額	決算額	30 年度予算案	備 考
繰越金	483,398	483,398	315,992	
年会費	240,000	242,000	240,000	
研修参加費	70,000	59,000	65,000	おやさと研修会 24,000 おたすけ研修会 35,000
利 子	100	1	10	
合 計	793,498	784,399	621,002	

## 支出の部

項 目	29 年度予算額	決算額	30 年度予算案	備 考
おやさと研修会	160,000	57,392	150,000	社会福祉課、講師接待、交流会等
おたすけ研修会	350,000	322,309	330,000	交通費、交流会、教務支庁お礼等
委員会助成	50,000	50,000	50,000	
慶弔費	30,000	0	30,000	
事務費	30,000	22,216	30,000	「連盟だより」印刷代
予備費	173,498	16,490	31,002	おたすけ研修会打合せ、反省会
計	793,498	468,407	621,002	

## 監査報告

監査の結果、活動は適正に実施され、帳簿の記載並びに証拠書類等は適正に且つ正確に処理されておりました。

平成 30 年 4 月 18 日

おやさど研修会（平成29年11月25日）於・社会福祉課研修室

## 高齢者が幸せに生きる道

— 老いと病と医療との付き合い方 —

講師 今中 孝信 先生

天理よろづ相談所病院総合診療教育部アテンディングドクター  
社会福祉法人 近江ふるさと会 高齢者問題研究所長

### ● 講演中、いきなり心筋梗塞に

私は今年81歳になります。病氣も深刻なものを含め十指を数えます。この10年間に心筋梗塞、肺炎、胃がんになりましたが、お陰さまでいずれもたすけていただきました。

心筋梗塞は、教会の月次祭の午前中、雪の降る寒い日に地域の講演会に呼ばれた時です。何の前触れもなく重篤な心筋梗塞になりました。主催者はボランティア団体で元氣の出る話をしてほしいという注文があつたのです。割

と話もうまく進めることができ、あと10分というところで狭心症に襲われました。

これでは、今までの話は一体何だったのかということになります。救急車を呼んでも

らいましたが受け入れてくれる病院がない。救急車の中で、受け入れ先の病院との交渉が難航しているのが分かったとき、私は心筋梗塞だと自己診断し、私の人生もここで終わりかと覚悟しました。

やっと受け入れてくれる病院が見つかり、講演会場から出て行くとき多くの方々から救急車に向かってお見送りを頂きました。また、入院してからも講演を聴いていただいた方から数多くのメッセージをいただきました。そのまま私が死んでいても、講演は皆さん方にはささやかな励ましになったのではないかと考えています。

### ● “健康で長生き”は人生の目的にならない

言うまでもありませんが、生まれたということは100%死ぬことです。如何に生きるか、死ぬかの問題です。我が国は戦後70年余にわたって平和で豊か、長生きで何不自由のない生活をしていきますが、不平不満の塊かたまりです。

物事全て自分中心にしか考えない。社会によつて支えられ、大いなるものに生かされていることを忘れていきます。誰しも健康で長生きしたいですが、間違つてはいけません。健康で長生きというのは人生の目的にならないことです。死を見据えて生きる必要があるのです。



### ● 自国の医療に満足せず、幸せ度も低い

日本は国民皆保険で誰でも標準治療が受けられます。他の国から見れば羨ましく思われていますが、先進20カ国について「自国の医療に満足しているか」調査すると、日本は最下位なのです。別の幸せ度についての調査でも我が国は下位なのです。

つまり、物、金、健康、豊かさ、安全、平和等は直接、幸せに結びつかないということです。これらは幸せに生きる手段であって目的にならない。如何に生きるかということが抜け落ちた、モノ・カネ中心の生き方は哀れです。

端的な例としては、子どもたちの顔つきです。発展途上国の子どもの顔は輝いていますが、日本の子どもたちの顔は大人しく元気がありません、ちよつとしたことでも病院に行きますから健康大国どころか、病人大国ということになります。検査を受けて異常となれば薬を飲まされる。お医者さんごっこをしているようなものです。こうして経済の景気とは関係なく医療費がどんどんあがりますから、年間42兆円にもなっているのです。

### ● 高齢者は入院・手術が病氣の原因に

高齢者が幸せに生きるために必要な医療との付き合い方は、必要な時に医療を上手に使うことです。歳をとれば、何か症状があつてあたりまえです。耐えられない症状とか、毎日の生活に支障があるときに病院にかかるべきです。飲まない薬でも貰つておいて捨てるというのは、罰当たりになりませんか。

高齢者の場合、たいした症状でもないのに病院に行くことの恐ろしさについてお話しします。検査でがんが見つかり、高齢でも元氣だから手術をしましょうということになったとします。実は、手術が成功し元氣に退院するにはいくつつかのハードル(障害物)を飛び越さないとイケないのです。

個室に入りますと監禁状態のようになり、せん妄といって認知症のようになることがあります。これでは手術は無理だと自宅に帰ると元に戻るので。造影剤を使った検査は筒一杯で働いている腎臓には負担になります。絶食で安静にしますと血が固まりやすくなり、血管が詰まる脳梗塞や心筋梗塞の原因になることもあります。

いざ、手術となつても余力のない高齢者はいろいろな合併症を覚悟しなければなりませんし、麻酔もアタマにとつて毒になります。つまり、高齢者の場合、入院すること、手術すること自体が病氣の原因になりうるのです。

分かりやすくいいますと、高齢者は早期発見・早期治療は通用しないということです。もちろん、本人と家族がこのことを承知で治療を受けられる場合は、それぞれの生き方ですから、イケないとは言えません。

### ● 高齢者には専門医よりも「かかりつけ医」

病院や医者を上手に使うには、専門医だからいいというわけではありません。まずはじっくり患者さんの話を聞くこと、治療をどうするか一緒に考えることが医療の原点です。主治医に向かい合うだけでほんとと安心すると言われる医師が求められています。

珍しい病氣の専門医はほんの一握りでいいのです。超高齢化社会で



は地域で患者とともに住む医師が必要です。ところが現在はビルで開業し、自宅は別にあり時間が来たら閉めて帰る勤務医のような専門医が多いのです。

夜中に電話一本で往診してくれる医師がいますか。医者という仕事が好きなのに医者になってももらいたいと思いません。今は頭がよくてお金のある家庭の子どもが医者になっています。貧しくても医者になりたい人間が医者になれる道を開かないといけません。

### ● 老いは、若い時と比べない

老いについては、自分の若い時と比べない、人と比べないことです。テレビに出てくる元気な高齢者は例外です。体力よりも、自分にとって何がやりたいのか楽しいのかを中心におくことです。はつきりとした目的があれば苦しいことも頑張れるのです。

高齢者の死因は肺炎が一位です。抗生剤は効きますが、バイ菌に最後のトドメを刺すのは本人の白血球（免疫力）です。治すのは神様の十全の守護です。神様に働いてもらうのに信じて待つこと。時間という薬がなによりも大事です。

### ● 医者には研究体験も必要

日本人は何故か、せかせかしていると思いませんか。待てない社会、待たさない社会です。結果が出るまでの経過を楽しむ余裕がない。何に挑戦するにしても結果だけを求めず、今取り組んでいることに目いっぱい努力し手抜きをしないことです。そうすれば、たとえその時に目標が達成されなくても、その時の経験が後で生きてく

るのです。

私は医学部を卒業して大病院の医局に入りましたが、研究に喜びを感じられず、早く地域に出て実地診療をしたかったのです。その時、指導者が、「君の言っていることはまともなように聞こえるが間違っている。今の研究生活が辛いからそう言っている。まずは、医学博士を取れる研究成果を出してから、博士号はいらないというなら返上しろ」と言われたのです。

私はそれからシャカリキに勉強して、博士号をもらったのですが、後日、憩の家でレジデント（研修医）の指導医になったとき、その時の経験が非常に役にたちました。

良い医者になるためには手当てということを意識して、少なくとも一日二回は患者さんのもとへ行つて話を聞くことです。患者さんに優しいだけなら家族以上にはなれない。医者は同時に医学の勉強が必要です。仕事が終わってから勉強するには睡眠時間を5時間に削るしかないのです。

人の研究も参考にさせてもらう。研究をしたことのない医者は表面にあらわれた結果しか読まない。どのように研究して、その結果をどのように解釈しているか。こうした見方ができるには、自身が研究した経験がモノをいうのです。

### ● 究極の健康には「氣」が必要かもしれない

自分はどういう人生を送りたいのか、どのように世の中の役に立ちたいのか、そのためには何が必要なのかという視点で考える必要があります。あの人のようになりたい、身近な人でそういう方を頭に描く

と大きく狂わない。ロールモデルといえます。

ちなみに、90歳以上生きた高僧5人の共通点を調べると次の通りでした。

- ① 姿勢がよい
- ② 腹式呼吸をしている
- ③ よく歩く
- ④ 小食、粗食
- ⑤ 日々1合以内の晩酌をたしなむ
- ⑥ 幼児期に病弱であった
- ⑦ 性格がおおらかで、やさしい。

104歳で亡くなられるまで活躍された日野原先生は一日の食事は1300カロリーでしたが、先生の基礎代謝は1200カロリーです。計算が合わないので先生に尋ねますと、「太陽から直接エネルギーを得ている」と言われました。どう考えたらいいか。あえて言えば「氣」に関係があるのではないかと思えます。

私について申しますと、胃がんで手術をうけ胃がないため、少しずつ一日6回の食事ですから絶対的にカロリーは不足しています。体重は10kg減りました。しかし、これまで通り活動しても疲れない。皆さんから元気だと言われるのは、皆さんから「氣」をもらっているからかも知れません。本当に自分のやりたいことができれば、物理的、科学的に理屈や計算が合っていないなくても元気に生きられるのではないのでしょうか。

# 天理教民生児童委員連盟 委員紹介

氏名  
教区  
直属教会・所属教会

山田常則 委員長  
奈良教区  
西・傳法



大前道廣 副委員長  
兵庫教区  
社・明畑



吉永道子 副委員長  
東京教区  
敷島・梅一



上杉美子 委員  
大阪教区  
中河・島里



上平智一 委員  
岡山教区  
大縣・天平



中村誠一 委員  
北海道教区  
洲本・統典



北中秀和 委員  
兵庫教区  
郡山・攝の宮



橋本直之 委員  
大阪教区  
網干・網阪



三代信行 委員  
鳥取教区  
笠岡・米美



毎田孝則 委員  
山口教区  
周東・鶯谷



野田裕和 委員  
高知教区  
越知・土州



高野恒善 委員(新)  
新潟教区  
甲府・越後



末村真人 委員(新)  
兵庫教区  
兵神・湊西



松尾弘幸 委員(新)  
長崎教区  
名京・佐福



青木健裕 委員(新)  
愛知教区  
本愛・本枇杷島

